



NEARプロジェクト海辺の漂着物調査報告書

2012年度 概要版



財団法人 環日本海環境協力センター
NPEC Northwest Pacific Region Environmental Cooperation Center

海辺の漂着物調査

(財)環日本海環境協力センター(NPEC)では、沿岸自治体との連携・協力体制の構築や漂着物等による海辺の汚染実態の把握等を目的として、1996年度から「日本海・黄海沿岸の埋没・漂着物調査」を開始し、2010年度からは「NEAR[※]プロジェクト海辺の漂着物調査」として、日本、中国、韓国、ロシアの自治体が参加する国際共同調査を実施しています。

これまで、北東アジア地域の沿岸4か国の38自治体、184海岸において、延べ29,316人の参加者の協力を得て調査を実施しています。

※北東アジア地域自治体連合

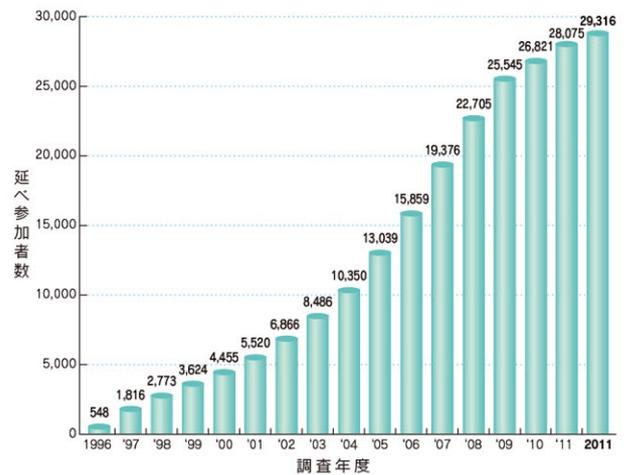


図1 延べ参加者数の推移

漂着物調査の概要(2012年度)

調査期間

調査は、2012年8月から12月までの期間に実施しました。

調査主体及び調査海岸

調査は、各県や市町村が中心となり、地元の市町村、NGO・NPO、小・中学校等と連携・協力して行いました。2012年度は、日本、韓国、ロシアの3か国の15自治体、33海岸において、延べ1,241人が調査に参加しました。



図2 2012年度 調査海岸

調査結果 (※調査方法の詳細は、参考資料を参照)

100㎡あたりの漂着物平均個数は318個であり、内訳は、「プラスチック類」が244個(100㎡あたりの総個数の77%)と最も多く、次いで「発泡スチロール類」が53個(同17%)の順でした。

100㎡あたりの漂着物平均重量は6,055gであり、内訳は、「プラスチック類」が3,329g(100㎡あたりの総重量の55%)と最も重く、次いで「その他の人工物」が1,547g(同26%)の順でした。

このように「プラスチック類」や「発泡スチロール類」のような、軽くて、破片化しやすいプラスチック製の素材や、木片等が含まれる「その他の人工物」が漂着物全体に占める割合が、とても高くなっています。

また、エリア別の100㎡あたりの漂着物平均個数は、「エリアA」が708個と最も多く、次いで「エリアD」が583個の順であり、「エリアF～H」は50個未満と少ない結果でした。

さらに国別には、日本の海岸は、他の国と比べて、量・個数ともに多い傾向が確認されており、その要因については、今後、越境漂着物による影響や海岸管理体制の違いなどを考慮しながら検討していく必要があります。

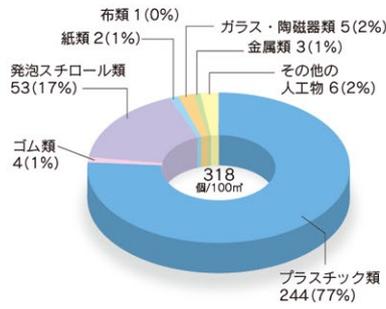


図3 2012年度 海辺の漂着物 100m²あたりの個数(個)

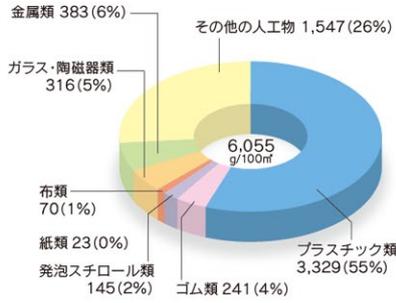


図4 2012年度 海辺の漂着物 100m²あたりの重量(g)

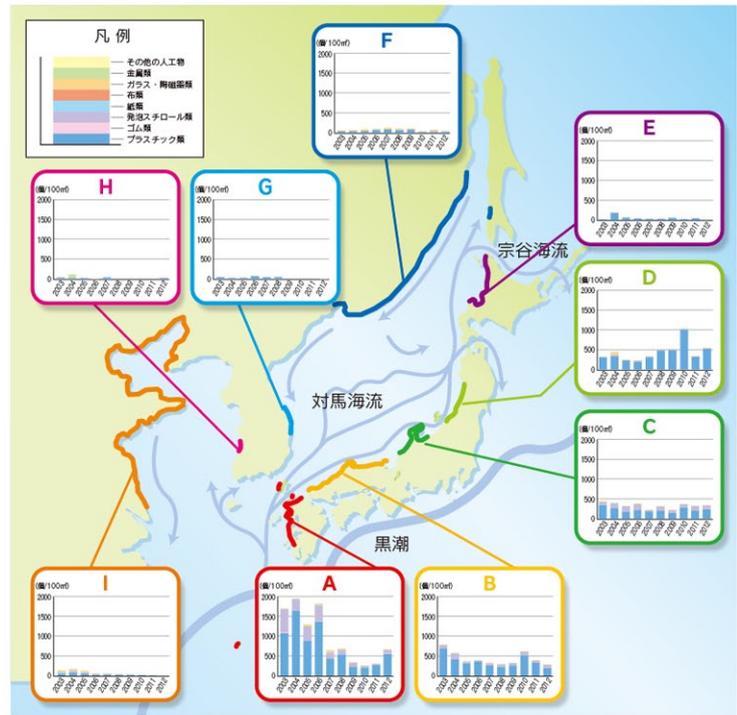


図5 エリア別 海辺の漂着物100m²あたりの個数の推移

表1 2012年度 調査海岸

エリア	番号	所在地	調査海岸	100m²あたりの採集個数(個/100m²)	100m²あたりの採集重量(g/100m²)	調査参加団体
A	1	長崎県	清石浜	1,878	41,097	長崎県杵岐保健所、杵岐市環境衛生課、杵岐島環境問題を考える会
	2		白浜海岸	278	25,336	長崎県対馬保健所、対馬市
	3		蛤浜海水浴場	301	6,640	長崎県上五島保健所
	4	佐賀県	相賀の浜	841	9,282	佐賀県、唐津市、唐津市立湊中学校
	5	福岡県	大口海岸	244	2,907	福岡県廃棄物対策課、福岡県筑紫保健福祉環境事務所、糸島市生活環境課、糸島市立加布里小学校
B	6	山口県	二位の浜	554	1,218	山口県廃棄物・リサイクル対策課、山口県長門健康福祉センター、長門市、長門市立日置中学校
	7		涌田海岸	130	4,808	下関市環境政策課、下関市立誠意小学校
	8		後浜	229	7,680	下関市立小串小学校、下関市環境政策課
	9		大浜海岸	470	3,152	夢海中学校、長門市生活環境課、長門健康福祉センター、夢海中学校保護者、地域住民
	10	鳥取県	浦富海岸	352	3,646	鳥取県循環型社会推進課、鳥取県東部総合事務所、岩美町環境水道課、いわみ自然を愛する会、岩美町観光協会、浦富観光協会、牧谷自治会、東浜観光協会
11	兵庫県	弓ヶ浜海岸	227	682	鳥取県循環型社会推進課、鳥取県西部総合事務所、米子市環境事業課、鳥取県立境港総合技術高等学校	
12		気比の浜海水浴場	110	1,027	兵庫県但馬県民局環境課、豊岡市立港東小学校、NPO法人たじま海の学校	
C	13	石川県	千里浜海岸	168	1,730	石川県廃棄物対策課、能登中部保健福祉センター、羽咋市環境安全課、羽咋市教育委員会、羽咋市広域圏事務組合、クリーン・ビーチ石川実行委員会、金沢星稜大学
	14		渋田浜	273	4,487	輪島市立南志見小学校、輪島市環境対策課
	15		白崎海岸	616	6,513	輪島市立南志見小学校、輪島市環境対策課
	16		島尾・松田江浜	712	4,985	(財)環日本海環境協力センター
	17	富山県	松太枝浜	486	843	富山県環境保全課、高岡市環境サービス課、高岡市立太田小学校、太田校下老人クラブ、(財)環日本海環境協力センター
	18		海老江海岸	388	390	富山県環境保全課、射水市港湾・企業立地課、射水市環境課、射水市立東明小学校、富山経済同友会、(財)環日本海環境協力センター
	19		岩瀬浜	133	130	富山県環境保全課、富山市環境保全課、富山市立岩瀬小学校、富山大学理学部生物圏環境科学科、NOWPAP地域調整部富山事務所、きんたろう倶楽部、国際ソロプチミスト富山、富山経済同友会、(財)環日本海環境協力センター
	20		宮崎・境海岸	101	295	富山県環境保全課、朝日町住民・子ども課、朝日町立あさひ野小学校、(財)環日本海環境協力センター
D	21	山形県	浜中あさり海水浴場	470	1,469	山形県庄内総合支庁環境課、鮭川町立鮭川小学校
	22	青森県	出来島海水浴場	44	1,609	青森県環境政策課、つがる市環境衛生課
	23		吹越海岸	1,235	20,104	青森県環境政策課、青森県青森環境管理事務所、横浜町税務町民課、大田土地改良区
F	24	ハバロフスク 地方政府	トキ入江	73	23,618	ハバロフスク地方環境監査・標準課、ワニノ町第2総合学校、ワニノ町公立「放課後活動センター」
	25		アンドレイ入江	1	2	ハバロフスク地方環境監査・標準課、ソヴェーツカヤ・ガヴァニ地区自然利用課
	26		オブマンナヤ入江	68	2,613	ハバロフスク地方環境監査・標準課、ソヴェーツカヤ・ガヴァニ地区自然利用課、マイスキー町第15総合学校
G	27	沿海地方	ナホトカ湾 ラシケヴィツチ入江A	35	2,081	沿海地方天然資源・環境保全局、パルチザンスキー地区ソロタヤ・ドリナ村総合学校環境サークル
	28		河趙臺(ハジヨテ) 海水浴場	2	96	邱井(クジヨン)小学校
	29		鏡浦(キョンポ) 海水浴場	2	80	邱井(クジヨン)小学校
H	30	忠清南道	望祥(マンサン) 海水浴場	3	54	邱井(クジヨン)小学校
	31		春長臺(チュンジャンテ) 海水浴場	1	37	大田・忠南(テジョン・チュンナム)環境保全協会
	32		大川(テジョン) 海水浴場	2	48	大田・忠南(テジョン・チュンナム)環境保全協会
33	慶尚南道	サチョン海水浴場	65	21,147	ナムヘ中学校	
計3か国、15自治体、33海岸				318	6,055	延べ参加人数：1,241人

※E、Iエリアは都合により2012年度の調査を実施しませんでした。

北東アジア青少年環境活動体験プログラムによる普及啓発活動

富山県とNPECでは、NEARプロジェクトの一つとして、北東アジアの青少年に環境活動の機会を提供する「北東アジア青少年環境活動体験プログラム」を推進しています。2012年度は富山県及びNPECの主催により富山県内でプログラムを実施し、4か国から57名が参加しました。(2012年度日本郵便の年賀寄附金の助成を受けて実施)

今回のプログラムのテーマは「海洋環境保全」で、海岸における清掃活動や漂着物を利用したアート作品の制作などを通して、漂着物の原因となるごみのポイ捨て防止などの実践を参加者に呼びかけるなど、参加者に対して漂着物対策に関する普及啓発を行いました。

(1)開催期日・場所

2012年8月18日(土)～19日(日) 富山県内

(2)参加者

北東アジア地域の中学生、高校生57名
(日本20名、中国10名、韓国13名、ロシア14名)

(3)主な内容

【8月18日(土)】

- ア 参加者による活動発表
- イ 海洋環境保全講座
- ウ 講演「漂着物アートで伝えよう環境保全メッセージ」
講師：富山大学芸術文化学部 後藤 敏伸 教授
- エ 環境体験活動(参加者による漂着物アート制作)
- オ 友好の交流会

【8月19日(日)】

- ア 環境体験活動(地引網体験、海岸清掃活動)
- イ 北東アジア青少年・環境サポーター交流会への参加
 - ①講演「富山湾の海底から海洋環境を考える」
講師：水中カメラマン 大田 希生 氏
 - ②参加者による活動発表
 - ③北東アジア青少年環境宣言2012 の作成・発表



地域における普及啓発活動

海洋ごみ問題については、実態把握や議論のみならず、具体的な対策を始めることが必要となっていますが、市民への海洋ごみ問題の浸透は不十分な状況です。

このように多くの市民が地球規模の海洋環境問題としての海洋ごみ問題について理解を深めることが求められています。

海洋ごみ問題に関する普及啓発活動は、身近な取組みを進めていくための対策の第一歩となるものであり、今後、各地域で広く展開されることが期待されます。

■ 海洋ごみアクション・フォーラムの開催(2013.2.9)

海洋ごみ問題を解決するためには、一人ひとりが、ごみのポイ捨てをしないなどの行動を実践することが重要です。

このため、富山県とNPECでは、市民に海の大切さを理解していただき、海洋ごみを減らすための具体的な行動を呼びかけるフォーラムを開催しています。

今年度のフォーラムでは、豊かな海を守り育てる活動を積極的に進めている「環日本海・環境サポーター」などの活動発表が行われたほか、海洋環境保全活動をより一層推進していくための取組みについて、参加者による意見交換が行われました。



海洋環境保全に関する活動事例発表



参加者による意見交換

■ イベントなどでの普及啓発活動

NPECでは、市民の皆さんに海洋ごみ問題に関心を持っていただくため、環境に関するイベントなどの機会をとらえて、漂着物に関するパネルの掲示や漂着物アート作品の展示などの啓発活動を行っています。

このほか、地域の学校や団体と連携して、漂着物アート展や漂着物アート制作体験会の開催、出前講座の実施などの取組みを進めています。



とやま環境フェア2012 (2012.10.20~21)



エコフェアinイオンモール高岡 (2012.10.27~28)

みんなで、豊かできれいな海づくりに取り組もう！

私たちの海は、世界中の海とつながっています。

身近な海を豊かできれいに守り育てていくことが、環日本海地域の環境保全につながります。

まずは、足元から行動を起こし、一人ひとりが、海洋ごみを減らす取り組みを進めながら、海の生き物のための環境づくり、豊かな海を育む森づくりなどにも取り組んでいくことが大切です。

このため、富山県とNPECでは、こうした取り組みを行う人たちを「環日本海・環境サポーター」として募集・登録し、その活動を応援するサポーター制度を2011年6月から開始しました。

現在、サポーターには、企業、団体、NPO、学校等の子どもから大人まで約1,400名の方々に登録いただいております。各地で、海岸や地域の清掃活動、海辺の漂着物調査、藻場の再生活動、植林活動などの取り組みが行われています。

皆さんも、豊かできれいな海を守り育てるために、身近なところから、できることから取り組んでいきましょう。

環日本海・ 環境サポーター アクション5[※]

- ① ボイ捨て、投げ捨てしない。
ごみの投棄のない社会にしよう。



- ② 河川、海岸や身近な場所をきれいにしよう。



- ③ 清掃活動、海洋ごみに関する調査や学習の機会に参加し、海洋ごみ問題の解決のためにみんなで考えよう。



- ④ 海の生き物ための海辺環境を守り育てよう。



- ⑤ 豊かな海を育む森を守り育てよう。



参考資料

海辺の漂着物調査では、海岸に存在する海洋ごみの実態把握だけでなく、その発生源も推測するため、材質別に大きく分類し、さらに機能や製造時の用途別に細分類をしています。また参加者に対しては、調査結果を参考にして、海洋ごみ削減に向けて、自分自身ができる行動を考えて実践するよう呼びかけています。

調査方法

漂着物調査

①事前調査

- 事前に、海岸の用途、周辺の状況、直近の清掃状況等の基礎調査を実施します。

②調査区画の設定等

- 原則として、調査対象の海岸全体の漂着物の状態が把握できるよう、調査範囲を選定し、波打ち際から陸地方向へ連続的に縦横10mの区画(以下「調査区画」という。)を設定します。
- 調査区画は、原則1列3区画としますが、海岸の奥行きが狭く1列で3区画を確保できない場合は、複数列とします。
- 調査区画は、調査範囲が判るように四隅に杭を打ち、その間をナイロン紐等で分けします。
- 調査区画内の漂着物(※人工のもの)を区画毎に次の8種類の分類に区分し、重量及び個数を測定するとともに、漂着物の印字等から国内製造品と海外製造品にも分けます。

①プラスチック類

②ゴム類

③発泡スチロール類

④紙類

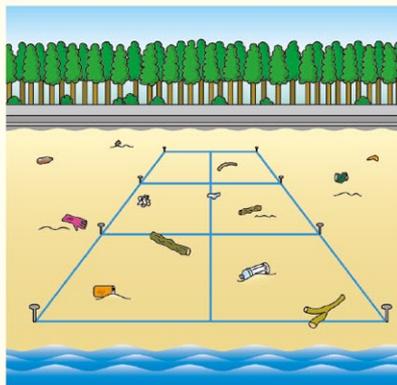
⑤布類

⑥ガラス・陶磁器類

⑦金属類

⑧その他の人工物

※その他の人工物は主に角材・板等の木類



① 調査区画を設定しましょう。



② 漂着物を拾い集めましょう。



③ 漂着物を分けましょう。



④ 漂着物の重量・個数をはかり、表に記入しましょう。

※調査方法は、一般社団法人JEANによるものを参考にしています。



海洋ごみがない海岸はどんなところ？

没有海洋垃圾的海岸是个什么样的地方？

해양쓰레기가 없는 해안은 어떤 곳인가？

Какое оно побережье где нет морского мусора？



財団法人 環日本海環境協力センター

NPEC Northwest Pacific Region Environmental Cooperation Center (NPEC)

〒930-0856 富山県富山市牛島新町5-5

TEL. 076-445-1571 FAX. 076-445-1581

<http://www.npec.or.jp/>